

事務連絡
令和6年6月25日

長野国有林森林整備協会
名古屋造林素材生産事業協会
(一社)長野林業土木協会
(一社)名古屋林業土木協会
(一社)林道安全協会中部支所
(一社)林道安全協会中部支所名古屋出張所

} 殿

中部森林管理局 森林整備部長

各種事業実行に係るクマ被害防止について

平素より、国有林野事業の実行に当たり、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、昨年度（2023年度）、クマに襲われケガをするなどした方は、全国で219人になり、このうち6人が亡くなっています。

昨今の報道でも盛んに取り上げられているクマによる人身被害ですが、今年度も全国で15人（6月5日までの速報値）がケガをしており、クマの出没情報については4月の1ヶ月で直近5ヶ年で最も多い、657件（4月までの速報値）となっており、山間部だけではなく市街地にも出没しています。

今後、事業の最盛期を迎えるに当たり、クマによる人身被害の発生が懸念される中、貴団体の会員の皆様に、降車時にクラクションを鳴らすなど人の存在をクマに知らせる対策を講じたうえで、別添1「クマ類の出没対応マニュアル 一改訂版— 環境省自然環境局作成」（一部抜粋）を配布し注意喚起するなど、事故防止に向けた適切な対応をいただくようお願いいたします。

（担当：企画官(間伐推進担当) TEL050-3160-6569)

環境省ホームページより抜粋
クマ類の出没対策マニュアル ー改定版ー

クマ類の出没対応マニュアル

ー改定版ー



令和 3（2021）年 3 月

環境省自然環境局

目次

本マニュアルの目的.....	i
I. 出沒に備える.....	1
1. 人とクマ類のすみ分け.....	1
2. 連絡体制の構築.....	2
3. 出沒状況に応じた対応方針の作成.....	6
4. 研修と人員の配置.....	9
5. 人の生活圏への出沒防止.....	14
6. クマ類の生息域での被害防止.....	27
7. 堅果類の豊凶調査と大量出沒予測.....	32
8. 学習会の開催.....	38
II. 出沒時の対応.....	40
1. クマ類の出沒への対応.....	40
2. 市街地等での銃の使用.....	55
3. 人身被害発生時の対応.....	60
4. 捕獲・放獣作業の注意点.....	64
5. 放獣の方針と体制整備.....	67
III. クマ類に遭遇した際にとるべき行動.....	72
<参考>.....	74
IV. クマ類の生態と現状.....	74
1. クマ類の生態.....	74
2. 生息域・生息状況の変化.....	79
3. 人身被害状況の推移.....	99
4. 被害対策の状況.....	106
V. クマ類の錯誤捕獲によるリスクとその対策.....	109
用語.....	111
資料編.....	112

III. クマ類に遭遇した際にとるべき行動

この章では

クマ類の生息域となる山林等へ入山する際はもちろん、人の生活圏でもクマ類と遭遇する可能性があります。クマ類による人身被害を回避するためには、クマ類と遭遇した際に適切に行動することが大切です。ここでは、クマ類と遭遇した場合にとるべき行動について解説します。

(1) 遠くにクマがいることに気が付いた場合

落ち着いて静かにその場から立ち去ります。クマが先に人の気配に気づいて隠れる、逃走する場合がありますが、もし気が付いていないようであれば存在を知らせるため、物音を立てるなど様子を見ながら立ち去りましょう。

急に大声をあげたり、急な動きをしたりするとクマが驚いてどのような行動をするか分からないため、注意しましょう。

(2) 近くにクマがいることに気が付いた場合

まずは落ち着くことが重要です。時にクマが気づいて向かってくる場合があります。

本気で攻撃するのではなく、威嚇突進（ブラフチャージ）といって、すぐ立ち止まっては引き返す行動を見せる場合があります。この場合は、落ち着いてクマとの距離をとることで、やがてクマが立ち去る場合があります。

クマは逃走する対象を追いかける傾向があるので、背中を見せて逃げ出すと攻撃性を高める場合があります。そのため、クマを見ながらゆっくり後退する、静かに語りかけながら後退する、など落ち着いて距離をとるようにします。

慌てて走って逃げてはいけません。

(3) 至近距離で突発的に遭遇した場合

クマによる直接攻撃など過激な反応が起きる可能性が高くなります。攻撃を回避する完全な対処方法はありません。クマは攻撃的行動として、上腕で引っ搔く、噛み付く、などの行動をとりますが、ツキノワグマでは一撃を与えた後すぐ逃走する場合がありますとされています。顔面・頭部が攻撃されることが多いため、両腕で顔面や頭部を覆い、直ちにうつ伏せになるなどして重大な障害や致命的なダメージを最小限にとどめることが重要です。

クマ撃退スプレー（唐辛子成分であるカプサイシンを発射するスプレー）を携行している場合は、クマに向かって噴射することで攻撃を回避できる可能性が高くなります。

(4) 親子グマとの遭遇

親子連れのクマと遭遇した場合、母グマは子グマを守ろうと攻撃的行動をとることが多いため、より一層注意が必要です。子グマが単独でいるような場合でも、すぐ近くに母グマがいる可能性が高いため、近づくことはせず、速やかにその場から離れることが必要です。

(5) クマ撃退スプレーによる撃退

カプサイシンは粘膜を刺激するため、クマの目や鼻・のどの粘膜にスプレーが当たるよう、顔に向かって噴射することが重要です。射程距離は5m程度と短い製品が多いため、十分クマを引き付けてから噴射する必要があります。

下草が人の背丈ほどに鬱閉したところなどでは効果的な噴射が難しく、十分な効果を期待できないことがあります。刺激性物質の効果は人も同じなので、風向きによっては噴射した本人へも影響があります。それでもクマからの攻撃を回避するためには、躊躇せずスプレーを噴射することが重要です。

誤射に注意しつつ、いざという時にすぐ使うことができる場所に携帯することが必要になります。咄嗟に使用することは難しいので、事前にトレーニング用スプレーなどで練習することも重要です。